

## 児島先生を想う

藪 下 紘 一  
(ドイツ語)

いつ児島先生が着任したかは覚えていません。組合の方の仕事を何年かやっただけです。

今年の2月か3月か、はっきりしませんが、教授会の後我々は残って、講義のコマ数の問題をもう一つの案件と一緒に扱うかの話になって、種々意見が出ましたが、コマ数の問題だけは切り離して、次年度にも当局と協議したいという意見にまとまりました。

その班会の意見を持って、先生は代議会で了承願ひ、執行部でも良かろうとなって、1時間半語くらいたった頃戻ってきて、「通りました」と報告してくださいました。私たちは思わず拍手した物でした。普段は班会にも出ずサボっていたのですがこのときだけは真面目になって、残り、待ち、好ましい結果になった事を大変嬉しく想いました。感謝しています。

私が学生部委員を2期やって降ろしてもらい、後継者が児島先生になりました。私は口答で委員会報告をしていましたが、児島先生は各種行事の方を、また審議事項での各委員の意見をも文書化してわかりやすくしました。これからの報告は、これを継承するようになるでしょう。

廊下で出会って、「今日は!」、「ご苦労さんです!」で終わっていましたが、あるとき「先生、民話面白いですね。」とっていました。いつか「中国文学史」でしたか、私のメール・ボックスに入っていました。返礼もしないうちに時間が過ぎていきました。こんな事になってしまいまして、失礼しておりますが、「スウェーデン民話名作集」1、2巻が出る予定になっております。出来ましたら遺族の方へ贈らせていただこうと思っています。

体調の事は聞いていませんでしたが、「惜しまれて…」が夭折です。これは真に夭折です。安らかに眠りください。